様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 １３ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｋ１４０９８

研究課題名（和文）地方城下町における明治初頭の地籍に関する都市史的研究

研究課題名（英文）Urban Historical Study on the Land Register in Provincial Castle Towns of Early Meiji Era

研究代表者
箕浦　永子（MINOURA, EIKO）

九州大学・人間環境学研究院・助教

研究者番号：７０５６７３３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、地方城下町における明治初頭の地籍について定量的かつ定性的に分析することによって、近代移行期における土地所有と土地利用の特性について明らかにすることを目標とした。明治初頭の福岡城下町における全地籍について、地籍データベース、地籍復原図、地籍GISデータを作成することができたことにより、全貌を可視化することができたとともに、今後の福岡城下町の都市史研究に基礎データのひとつを提供することができた。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to clarify the characteristics of land ownership and land use in the modern transition period by quantitatively and qualitatively analyzing the land register in provincial castle towns of early Meiji era. I was able to create a database for the land register, reconstructed the map for the land register, and GIS data for the land register using all the land registers in Fukuoka castle town at the beginning of the Meiji era. I made it possible visualizing the whole land register and providing one of the basic data for urban history research in Fukuoka castle town.

研究分野：工学　建築学　建築史・意匠

キーワード：城下町　近代移行期　土地所有　土地利用　地租改正　福岡　博多　GIS

１．研究開始当初の背景

日本都市史分野における土地に関する研究は、東京・京都・大阪（江戸・京・大坂）の３都に偏重しており、むしろ多数存在した地方城下町の実態が解明されなければ日本都市史として全容を解明したとはいえない。現代日本の多くの都市が近世の都市空間を基層として近代以降に再編と発展を繰り返しながら成立していることを考えれば、近世から近代への再編、つまり伝統的な社会＝空間構造の何を捨て、近代的な社会＝空間構造へといかに造り替えてきたのか、その再編の実態を明らかにすることは重要な課題といえよう。近代移行期の初期段階としての明治初頭の都市空間は、幕末までの社会＝空間構造から明治維新を機に一気に変貌したのではなく、近世の大部分を継承していたものと考えられる。その実態の解明は、近代都市史を考える上での根幹ではあるものの、実は思いのほかつまびらかにされていない。

このような近代移行期における都市再編の問題に対して、とりわけ土地の問題は基盤的事象である。近代移行期における土地所有や土地利用に関しても、研究蓄積は東京・京都・大阪の３都に偏重しており、それらの都市で見られた諸現象が全国に多数存在した地方城下町やその他の都市空間においても同様といえるのか否かの実証は進んでいない。また、近世的土地所有から近代的土地所有への転換の契機は地租改正にあるが、その研究蓄積は農村における耕地を対象とするものが多く、地租改正は農村の耕地にとって有益であったとされている。しかし、都市における地租改正の影響および意義は意外に明らかにされておらず、都市において地租改正による課税制度が土地所有・土地利用にもたらした影響を実証的に解明することは近代日本都市史の課題のひとつといえる。

２．研究の目的

近代移行期における土地所有や土地利用に関する学術上の背景をもとに、本研究では地方城下町における明治初頭の地籍について定量的かつ定性的に分析することで、近代移行期における土地所有と土地利用の特性について明らかにすることを目的とした。これにより、近世的土地所有から近代的土地所有へといかに変容および変質したのかを解明し、近代日本都市史研究の全貌解明の一助となることを目標とした。

本研究では、地方城下町の一例として福岡城下を取り上げた。福岡城下は、近世に都市が形成された福岡部と中世から形成された博多部を抱えており、歴史の重層性の違いによる土地所有と土地利用の差異についても比較考察できると考えた。また、経済的に繁栄した博多部では、土地所有者の階層性や、所有類型の多様性があると考えられ、3 都との違いが見出せると見込み研究対象とした。

また、都市史研究において地理情報システム（GIS）を援用する研究は未だ少ないため、研究方法のひとつとして方法論の有用性を検証することも、挑戦的萌芽研究としての課題のひとつに据えている。

本研究における具体的な課題を、以下の 3 点とした。[1]武家地・福岡と町人地・博多における明治初頭のすべての地籍についてデータベース（DB）と地籍復原図を作成する。[2]地理情報システム（GIS）を援用した定量的分析を行い、マクロ・ミクロの両観点から土地所有と土地利用の特性を明らかにする。[3]個別の町の定性的分析を行い、地租改正前後の変化を考察する。以上を丹念に読み解くことで、近世的土地所有から近代的土地所有への変容を明らかにし、近代日本都市史研究の一助となることを目指した。

３．研究の方法

本研究では、明治初頭の福岡部と博多部の全地籍について、DB と地籍復原図を作成したうえで、GIS データを構築することを、挑戦的萌芽研究としての基本作業とした。

地籍の DB 化には、町ごとにすべての土地の情報が集約される明治初頭作成の『地所取調帳』（九州大学附属図書館所蔵）を用いた。本史料は、町別に和綴の簿冊にまとめられ、土地の１筆ごとに地番・土地の種別・面積・土地所有者・地価・地租が帳簿としてまとめられている文字史料であり、MS-Excel にて DB 化することとした。

地籍復原図の作成には、「字限図」（福岡法務局所蔵）を用いた。本図は、明治初頭に和紙で作成された後に昭和 40 年代まで使用されていたもので、変更が生じた場合は上から和紙張りすることで更新されてきたものである。そのため使用が閉鎖された時点の土地情報となるが、それまでの変更歴を伺い知ることができるものである。それぞれの字限図には縮尺上の歪みがあるため、整合をとるために国土地理院による現在の地図をベースとして歪みを調整のうえ接合し、CAD を用いて地籍復原図を作成した。

次に、地籍 DB と地籍復原図をもとに、GIS データを構築した。CAD で作成した地籍復原図をベースに、MS-Excel で作成した地籍 DB を合わせ、土地情報の項目ごとに分析できる GIS データを構築した。GIS データを構築したうえで定量的分析を行えるようデータを構築し、マクロ的観点、ミクロ的観点から土地所有と土地利用の特性を分析した。

個別の町の定性的分析には、地租改正前である江戸後期作成の櫛田神社文書「町絵図」（福岡市総合図書館所蔵）と地租改正直前の明治 5～6 年「巻帳直し願」の付図（福岡市総合図書館所蔵）を用いて比較考察し、可能な限り多くの個別事例の定性的分析を行い、地租改正前後の土地所有と土地利用に関する変化を比較考察した。

地籍の数が膨大なため、初年度に博多部、2 年目に福岡部と地域を分けて集中的に取り

組む計画であったが、史料所蔵先の都合により両地域の史料収集を初年度に完了した。そのため、初年度に史料収集と地籍 DB 化を進めた。2 年目は、引き続き地籍 DB の作成を進めるとともに、地籍復原図の作成を行った。3 年目は、地籍 DB と地籍復原図の精度を高めたうえで、GIS データの構築を行った。

４．研究成果

1)博多部の土地所有と土地利用

町人地を主とする博多部の土地は、神地・官有地・宅地・町中抱・村抱地に分けられた。

神地には神社境内や郷社境内があり、櫛田神社、綱和神社、蛭子社など基本的に神社の土地を対象としている。浜部の大濱に鎮座する蛭子社のように、小規模な社がある土地も神地とされていた。

官有地には、寺境内・堂宇・社地・宅地が見られ、社地や宅地であっても官有の場合があった。本研究で用いた『地所取調帳』は作成当時の所有を示す簿冊のため、その所有に至った経緯までは知り得ないが、ひとつひとつ個別の状況を踏まえて取りまとめられていたことが窺える。他に、博多部の官有地に近代政治を支える公共施設の利用が無かったことは、福岡部と大きく異なる点である。

博多部の大多数の土地は宅地であり、ほぼ個人所有の土地であった。1 筆のみを所有する例が多いが、複数筆を所有する例もみられた。その場合、町内で複数筆所有する例、町を越えて他の町にも所有する例、福岡部に居住する者が博多部の土地を所有する例などが見られた。複数の土地を所有する者は、近世からの有力な商人や職人、年行司や年寄を務めた者など、素性が判明するような人物が多い（図書①、雑誌論文⑤）。有力者であれば家文書の存在が期待されるため、今後の課題として、町を越えて所有するに至った経緯について家文書をあたって明らかにしていきたいと考えている。

町中抱は、町共有の土地であることを示しており、宅地や墓地がある。多くは町中抱と記載されるが、一部の土地では町中持と記載されていた。町中抱の土地の所在は、町の中央、隅、辻角など町によってさまざまであり、近世における町の木戸番や自身番などの番所が置かれた土地、井戸が置かれている土地、単に空家・空地が発生した際の一時所有の場合などと推測された。

寺に着目すると、境内は官有地となり、墓は町中持と檀家惣代の場合がある。境内が官有地となることは博多部と福岡部で共通するが、墓は博多部では町中持のほうが多いものの福岡部では檀家惣代のほうが多いという違いが見られた。これは、商人や職人が多く居住する博多部では、博多部の内部から外部へ、外部から内部へと居住者の入れ替わりが激しく、博多部に鎮座する寺の檀家は寺の附近に集住していないことが背景にあると考えられる。博多部では、檀家としての社会的結合よりも町としての社会的結合のほうが強いのではないかと推測された。

博多部では、畑地や田地などの耕作地の記載が無いことから、全域にわたって都市化していたと考えられる。しかしながら、明治 12（1879）年『福岡県地理全誌』によると、明治初頭の博多部・福岡部では野菜を多く生産していたことがわかる。例えば、大根・蕪・人参・韮・水菜・京菜・里芋・牛蒡・春菊・南瓜・胡瓜・冬瓜・南京豆・茄子と、実にさまざまな種類の野菜が生産されていた。これより、宅地であっても、例えば短冊型敷地の後方に耕作地を持ち、野菜を生産していたものと考えられる（図書②）。

2)福岡部の土地所有と土地利用

福岡部は、近世期に武家地を中心に町人地や寺社地も抱えていた。明治初頭の土地は、神地・官有地・宅地・町中持に分けられた。

神地には、県社・郷社・村社・社地境内があり、警固神社・光雲神社・新波戸住吉宮の記載が見られた。

官有地には様々な土地利用が見受けられ、明治の公共施設として県庁・警部局・修猷館（学校）・制札場・陸軍地・砲台・懲役場・絞罪場地、宗教関係として社地境内・寺境内・堂宇、近世期の遺構として郭・堀・旧船改番所・旧蔵所・旧船柱蔵・旧永蔵、自然地形として土手・土手敷・林、さらに空地や宅地が官有地であった。福岡部は明治以降に近代政治の中心となったため、さまざまな公共施設が設置されており、それらの土地が官有地とされている。寺境内は、近世期に寺社地であった唐人町、福岡六町筋と称された町人地の町を中心に複数存在した。なお、近世期の遺構で船や蔵関係は湊町のものである。

博多部と同様に大多数の土地は宅地であり、ほとんどが個人所有であった。唯一の例として、寺が複数の宅地を所有するという例が西町に見られた。個人所有は、1 筆を所有する例が最も多く、複数筆を所有する例、町を越えて所有する例があるなど、博多部と同様の状況であった。

旧武家地における宅地で見ると、上級藩士が居住した大名町は、大名町居住の者が土地を所有する例が多い。これは、近世期に自分屋敷を所有した居付地主が多いことが背景にあると考えられる。大名町で他町居住の者が土地を所有する例は極めて少ないが、その場合は福岡六町筋の町人地であった本町・呉服町・上名島町・下名島町の者であったことも特徴的であった。天神町は、明治から政治の中心となり、且つ商業地としても発展していったため所有の移動が多く、民間としては博多部の町や周縁の村に居住する者が天神町の土地を所有する例が多い傾向にあり、都心に進出する現象が起きていたことが窺え

た。中上級藩士が居住した荒戸町は、他町居住の者が所有する例が複数見られた。これは、近世期において自分屋敷ではなく拝領屋敷として藩から借りていたものを明治になって返還し、他者に所有が移ったものと推測される。その所有者には、福博問わず旧町人地の町に居住する者や周縁の村居住の者も見られ、空家となった武家屋敷を様々な者が所有する状況であったと考えられる。この現象は、他の旧武家地の町にも見られるが、荒戸町に際立つ特徴であった。足軽など下級藩士が居住した地行では、他町居住の者が所有する例が少ないのが特徴的であった。足軽も藩から土地建物を借りて居住していたと考えられるが、既に明治初頭に払い下げられたのか、返還のうえ他者の所有となり既に移り住んでいたことを示すのか、詳細を明らかにすることは今後の課題となった。

旧町人地における宅地で見ると、福岡部の各町の土地は居付の地主が多く、ほとんどの町は明治初頭も近世期の所有が維持されたものと考えられる。特例として、呉服町など商業的に優良な町の土地は、福岡部の他町はじめ博多部の町の者でさえ所有する例が見受けられた。旧町人地間で所有の移動が起きており、明治になって都心に進出するという商売上の意図が窺えた。

町共有の土地については、博多部では町中抱と記載されることが多いが、福岡部ではほとんどが町中持と記載されていた。町中持では、宗教関係の社地・堂宇・天満宮境内・墓地がみられ、町中持の宅地もあった。

寺については、境内が官有地であることは博多部と同様であるが、墓地はほぼ檀家惣代の名が記載されており、福岡部の寺では附近に檀家が集住する状況であったと考えられる。なお、境内・墓地ともに町惣持のものと、個人名記載のものが 1 例ずつ見られた。

3) 地租改正前後の変化

個別の町の定性的分析として、地租改正前後の所有の変化を中心に考察した。地租改正前を知るには、江戸後期に作成された「町絵図」（櫛田神社文書）を用いた。明治 5～6 年作成の「券帳直し願」付図（櫛田神社文書）は、地租改正を前に生じた土地所有の移動について、帳簿を修正するよう願い出たものであり、地租改正直前に誰から誰の手に渡ったかを知ることができる。地籍 DB で用いた『地所取調帳』は地租改正後に取りまとめられた簿冊であるため、地租改正前の移動が落ち着いた段階の状況を示す。以上の史料的性格を鑑み、江戸後期「町絵図」と明治初頭『地所取調帳』を比較考察することとした。ただし、江戸後期「町絵図」は櫛田神社が所蔵したもののため氏子域である博多部の町々に限っており、全町は無く 42 町のものを確認できた。明治初頭『地所取調帳』も全町は無く、84 町の簿冊がある。両者が揃う町々は 29 町に留まるが、これらを比較考察した。

江戸後期「町絵図」において、当該土地の中央に記載されている人名は当時の利用者（居住者）を示し、「屋号＋名」もしくは「名」のみで「姓」は記載されないことが多かった。当該土地の端に「券帳前何某」と記載されているのが徴税権を持つ人、つまり概ね所有者と考えられる。まず特筆すべきは、多くの場合において土地の利用者と所有者が異なっており、博多部の居住は借地借家が大多数であったことが明らかとなった。これを踏まえて、「券帳前」に記載される人名と『地所取調帳』の人名を照合すると、整合するものは半数にも満たなかった。両史料における作成年の開きは数 10 年程度とみられるため、不整合のもののすべてが代替わりを背景とするとは考えづらい。おそらく、地租改正前に所有の移動が生じたと考えられ、詳細を明らかにすることは今後の課題となった。

4) 都市史研究の方法論としての地理情報システム（GIS）の援用について

地籍 DB で用いた『地所取調帳』は町ごとに簿冊がまとめられ、各簿冊の執筆者によって文字の判読のしやすさが異なり、どうしても判読できないものは欠落箇所となり、今後の課題として残った。

地籍復原図は、法務局で入手した紙媒体の複写史料をスキャナーで画像データとして取り込み、デジタル化した。「字限図」そのものに歪みがあり隣接する町を繋ぎ合わせていくことが難しかったため、現在の福岡市の地図をベースとして、その上に「字限図」を合わせて各図の縮尺や歪みを調整したうえで、線データによる復原図を作成した。

GIS データの構築は、「試行版」として一応の完成とした。GIS 上で地籍 DB と地籍復原図の 1 筆ごとの座標を紐づけたが、座標はおおよその位置で指定するしかないため、精度に不安が残り、今後の課題として精査と検証が必要であると考えている。

作成データにおける精度上の課題が残ったが、本研究の成果として目指した定量的分析のためのデータ構築はほぼ完了することができた。都市史研究に GIS を援用するという挑戦を試みてきて、旧図を用いることの難しさを痛感したものの、方法論のひとつとして可能性はあると考えている。

5) 得られた成果と今後の展望

本研究は、地方城下町の一例として福岡城下町を取り上げ、明治初頭の地籍について全貌を把握することができた。作成した「地籍 DB」「地籍復原図」「地籍 GIS データ」は、地籍の全貌を可視化することができたとともに、福岡城下町の都市史研究における基礎データのひとつとして提供することができた。しかしながら、各データには精度に不安

が残るため、今後の課題として精査と検証を経る必要がある。

今後の展望として、個別の町の解明を深めることを軸として、土地所有と土地利用に関する現象そのもの、例えば地租改正前後にどのような人物像からどのような人物像へと所有の移動が起こったのか、所有の移動は居住の移動にも繋がるため借地借家や居住者の状況はどうであったのかなど、各現象を丁寧に追っていき、真相を解明していきたいと考えている。また、本研究の成果は地方城下町の一例としての福岡城下町に関するものであるが、これが他の地方城下町においても同様であったのか、都市を変えて解明していくことも必要であると考えている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計９件）

① 箕浦永子,蘇州日本租界における在留邦人の営業実態と居住に関する研究,日本建築学会学術講演梗概集(中国),pp.641-642, 査読無, 2017.08.
② 下岡未歩, 箕浦永子, 趙世晨, 旧唐津街道箱崎宿界隈における明治初頭の空間構造に関する研究,日本建築学会研究報告九州支部, 第 56 号, pp.557-560, 査読無, 2017.03.
③ 高比良菜津, 箕浦永子, 趙世晨, 地域文化資源を活かした歴史まちづくり活動に関する研究－福岡市博多部を事例として－, 日本建築学会学術講演梗概集（九州), pp.679-680, 査読無, 2016.08.
④ 吉岡大貴, 趙世晨, 箕浦永子, 市原猛志, 南満州鉄道附属地の形成と街区構成に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集（九州), pp.157-158, 査読無, 2016.08.
⑤ 箕浦永子,近代日本における民間事業家の地域開発に関する研究－博多湾鉄道による宮地嶽線の開通と香椎・唐原の開発－, 都市・建築学研究, 第 30 号, pp.45-50, 査読有, 2016.07.
⑥ 高比良菜津, 箕浦永子, 趙世晨, 地域文化資源を活かした歴史まちづくり活動に関する研究－福岡市博多部を事例として,日本建築学会研究報告九州支部, 第 55 号, pp.381-384, 査読無, 2016.03.
⑦ 吉岡大貴, 趙世晨, 箕浦永子, 市原猛志, 南満州鉄道附属地の形成と街区構成に関する研究,日本建築学会研究報告九州支部, 第 55 号, pp.421-424, 査読無, 2016.03.
⑧ 箕浦永子,近代中国の都市再編事業と民間の役割に関する研究－中華民国期蘇州の社会公共事業と商会の活動を通して－,公益社団法人 日本都市計画学会 都市計画論文集, Vol.50, No.3, pp.1226-1231, 査読有, 2015.10.
⑨ 箕浦永子,戦前期における蘇州日本尋常高等小学校の建設,日本建築学会技術報告集, 第 21 巻, 第 48 号, pp.849-852, 査読有, 2015.06.

〔学会発表〕（計７件）

① 箕浦永子, 蘇州日本租界における在留邦人の営業実態と居住に関する研究, 日本建築学会学術講演会（中国), 査読無, 2017.08.
② 下岡未歩, 箕浦永子, 趙世晨, 旧唐津街道箱崎宿界隈における明治初頭の空間構造に関する研究, 日本建築学会九州支部研究発表会, 査読無, 2017.03.
③ 高比良菜津, 箕浦永子, 趙世晨, 地域文化資源を活かした歴史まちづくり活動に関する研究－福岡市博多部を事例として－, 日本建築学会学術講演会（九州), 査読無, 2016.08.
④ 吉岡大貴, 趙世晨, 箕浦永子, 市原猛志, 南満州鉄道附属地の形成と街区構成に関する研究, 日本建築学会学術講演会（九州), 査読無, 2016.08.
⑤ 高比良菜津, 箕浦永子, 趙世晨, 地域文化資源を活かした歴史まちづくり活動に関する研究－福岡市博多部を事例として, 日本建築学会九州支部研究発表会, 査読無, 2016.03.
⑥ 吉岡大貴, 趙世晨, 箕浦永子, 市原猛志, 南満州鉄道附属地の形成と街区構成に関する研究, 日本建築学会九州支部研究発表会, 査読無, 2016.03.
⑦ 箕浦永子, 近代中国の都市再編事業と民間の役割に関する研究－中華民国期蘇州の社会公共事業と商会の活動を通して－, 日本都市計画学会 第 50 回学術研究論文発表会, 査読有, 2015.11.

〔図書〕（計２件）

① 箕浦永子他 14 名, 片木篤編『私鉄郊外の誕生』, 柏書房, 箕浦永子「民間と公共による〈郊外〉の形成」pp.198-203,2017.08.
② 菊地成朋, 南博文, 當眞千賀子, 有馬隆文, 趙世晨, 箕浦永子, 九州大学大学院アーバンデザイン学コース編『都市理解のワークショップ 商店街から都市を読む』, 九州大学出版会, 箕浦永子「土地をめぐる都市の時空解釈」 pp.56-66, 2015.04.

〔その他〕（計３件）

① 箕浦永子, 地籍データベース, 私家版
② 箕浦永子, 地籍復原図, 私家版
③ 箕浦永子, 地籍 GIS データ, 私家版

６．研究組織

(1)研究代表者

箕浦　永子（MINOURA EIKO)
九州大学・大学院人間環境学研究院・助教
研究者番号：７０５６７３３８